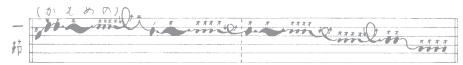


やんさノエ

会報

2011 No.15



発行 江差追分会

2011.7.11

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://www.hakodate.or.jp/oiwake/>



東北地方復興支援公演（6月21日：宮城県山元町）

一人ひとりができる支援を

江差追分会会長 濱谷 一治

風船を膨らませ横にしたような形状の三陸海岸、穏やかで豊饒な海が突然暴れ、息を呑む光景と化してしまっただ。

去る三月十一日、未曾有の震災で被災された東北地区に対し、追分会会員や被災された一人でも多くの方を「力づけ」たく鎮魂歌「江差追分」を派遣決定したのは震災から一カ月半経った四月二十四日であった。

被災された方々に対し私たちの思いを届けることとなった日は六月二十一日から三日間、被災あった日から百日を経た日となった。私は、所要あり東京から合流地点仙台市に向かった。凡そ二時間ばかりの行程であったが、車窓から海は見えないが瓦屋根をビニールシートが覆う異様にシヤッターを切った。

その日、第一訪問地「山元町勤労青少年ホーム」、二日目は檜山から六週間に亘って支援のため職員を送った「山田町織笠小学校」そして最後が「大船渡市民文化会館」（各会場での状況は別紙）。どこの会場でも気温三〇度を超え、湿度も梅雨期を迎え大変なこの時期、体育館に段ボールで間仕切りをし、生活している状況に胸が締め付けられる思いでした。

それでも会場のあちこちで「自衛隊」「警察」「医療スタッフ」等多くの支援者の姿に事態の重大さに加え、少し安堵した。私たちは毎日テレビで見、新聞を読み被災された状況は知っていたつもりでしたが、現地は目を覆うばかりであった。街がない……。

この度、被災地での公演では目に涙を浮かべ「ありがとう」と手を取って言ってくれた言葉に逆に元気づけられた思いです。

私達の公演を何から何まで段取りしていただいた「近藤さん」「コーディネーターの草野さん」「りんごラジオの高橋さん」そして大変お忙しい中、涙を堪えながら取って笑いを誘う司会をしてくれた「北篠さん」暑い中、本当にありがとうございます。

震災から三カ月半、被災されている皆さんの心の内は見えませんが、必ず復興できる日まで、私達一人ひとりができる支援をしていきましょう。

平成二十三年度江差追分会総会

追分全国大会半世紀第五十回記念大会へ

追分歓迎塔など準備事業に着手 東日本大震災支援追分コンサート



本年度江差追分会総会が四月二十四日、ホテルニューえさしで開催、新年度事業計画と予算が決定された。

開催に当たって、檜山振興局長の高橋則克さんと江差町議会議長の打越東亜夫さんが来賓代表で祝辞を述べた。

本年度予算総額は三千万九千円で前年度より五二六万八千円の増額となったが、積立金特別会計六一〇万円を繰入した。

追分会が重点としてきた全国大会が、明年半世紀となる第五十回大会の節目を視野に入れた事業計画を策定している。第五十回大会に向けて本年度から取組む事業を措置した。

主なものとしては、町内の出入口の主だった箇所（愛宕町、柏町、鷗島入口などを予定）に江差追分の歓迎塔（看板）を設置して来町者を迎える。第五十回大会の歴史的過程を踏まえて「半世紀の江差追分（仮称）」DVDの制作に着手するなどが計画されている。

る。

第五十回記念大会に向けた事業はまだ多様にわたるが、全国大会企画検討委員会（熊野正宏委員長）の答申内容から本年度から取組む事業を選択して着手することになっている。

一般的な事業は例年と特に変わらないが、本年度は第五十回大会記念事業を視野に、事前に着手出来るものから予算計上した。

また、三月十一日発生の東日本大震災による被災地支援コンサートを東北地区運営協議会と連携して実施する。

本年度取組む主な事業計画（新たな計画を抜粋）

□第四十九回全国大会で特に本年度取組む対策

◆アトラクションは金、土曜日予選会と日曜日決選会を行う

・（金曜日）江村貞一観光大使らによる江差の唄と民謡

・（土曜日）少年少女の追分大合唱（全国各支部参加）、東北地区の民謡

・（日曜日）前回優勝者の追分、歴代優勝者の唄（第十六代、第三十代四組）

◆大会以外の行事

・感謝事業―笑い嘆き節大会・いにしえ祭りとの連携協議・大会変遷パネル展準備・追分歓迎塔
・浜田喜一師、小路豊太郎翁顕彰碑前の追分大合唱と尺八連管

◆地区選抜大会の地区運営協議会主管
・本年度より地区選抜大会を地区運営協議会の主管で行う。

◆東日本大震災に係わる被災地支援
東北地区運営協議会と連携して、支援追分コンサートを開催

◆第五十回記念追分全国大会「半世紀の追分」DVDの制作
昭和三十八年からの大会歴史過程を収録したドキュメンタリーとして追分の唄、人を取材、約千本制作、頒布。

◆全日本音楽教育研究大会への講師派遣
普及宣伝事業「音楽のよさを生かし、豊かな心と確かな力を育む音楽教育」をテーマの札幌研究大会に浅沼和子首席師匠を派遣。

全国大会で 尺八連管を

～江差北小中で尺八学習～

昨年十月に町に寄贈のあった塩ビ管尺八を使った尺八学習が二月に二回、「NPO法人青少年と伝統芸能を育てる会」の小林理事長を講師に招き、江差北中学校で行われました。

北中学校一年生と北小学校六年生四三人が尺八を初体験。なかなか音が出なく最初は大変だったが、ようやく音が出せるようになって、児童生徒から笑顔と歓声がわきあがっていました。



尺八学習に取り組む江差北小中生

導要領に明記されたことを受けて、従前から全小中学校で実施している江差追分指導に加えて、江差追分の伴奏楽器「尺八」を中学校の教育活動に取り入れることとしております。

来年の江差追分全国大会の五十周年記念大会で中学生による尺八連管を披露することを大きな目標として、今年度もすでに尺八学習に取り組んでおります。江差追分会としても講師を派遣しており、この取り組みが後継者育成につながればと期待をしております。

第五十回記念江差追分全国大会プレ記念植樹

追分会館前にオオバマサキを植樹

函館トヨペット(株)より、来年の五十回記念江差追分全国大会の開催に先立ち、「緑ゆたかに、ふれあいのまち」を趣旨にした「第三十六回トヨペットふれあいグリーンキャンペーン」事業において、今回プレとなる第四十九回大会に記念となる苗木の贈呈の申し出がありました。

町としては、常緑樹で、塩害に強く、追分会館と追分節記念碑の雰囲気マッチする「オオバマサキ(ニシキギ科)」を選定し、記念碑の両サイドに二本を植樹することとしました。

五月二十三日、町関係者及び江差追分関係者約一〇人が参加し、式典が行われ、函館トヨペット(株)代表取締役社長の河村隆平様の挨拶に続き、緑の大使の二〇一一年度ミス・インターナショナル日本代表 村山和実様より国土緑化機構からのメッセージの後、記念植樹をし、最後に参加者全員で江差追分を合唱し式典を終了しました。

今後は、追分会館を訪れる観光客が追分節記念碑をバックに写真撮影する際の最適スポットとして期待されます。



会長、ミスインターナショナルらによる記念植樹



記念碑前で保育園児ら进行追分合唱



岩手県釜石市



岩手県大槌町



岩手県山田町

東日本大震災特集

東日本大震災復興支援公演を実施

東日本大震災により被災された方々に、明日への生きる希望につなげてもらうべく、六月二十一日、二十二日の二日間、宮城県山元町、岩手県山田町、大船渡市の避難所三か所において復興支援公演を行いました。

江差町から、濱谷一治江差追分会会長、菊地勲師匠、寺島絵里佳さん、東北地区運営協議会から、千葉栄人師匠、王藤正蔵師匠、嵯峨幸男師匠の歴代日本一、尺八伴奏の佐々木東雲さんほか皆様の協力をいただき、江差追分、東北民謡、北海道民謡をそれぞれの避難所で実演しました。

宮城県山元町の勤労青少年ホームには約七十人、岩手県山田町の織笠小学校体育館には約百三十人、大船渡市市民文化会館には約三十人が追分や民謡に耳を傾けました。

長く、つらい避難所生活を強いられている方々に対し、濱谷会長より「江差追分を聞いていただき、明日への生きる力としてほしい」と激励。

最初は硬い表情だった皆さんも、公演が始まると笑顔になり、手拍子や掛け声で会場が一体となり盛り上

がっていました。

予定の時間が過ぎててもリクエストが多く、時間オーバーする会場もありました。

本場の江差追分を聞いた被災者の方々は「遠く北海道から来てくれてこんな素晴らしい唄を聞かせていただき感謝します」「心が癒されました」「元気をもらいました」「心のもやもやが晴れました。すごく良かった」と皆さんに喜んでもらえることができました。

一日も早い復興と被災者の皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

また、今公演に際し、東北地区運



東北地区運営協議会に 義援金を贈呈

東北地区運営協議会の王藤会長へ、3月21日に濱谷会長より江差追分会として義援金30万円を贈呈しました。

東北地区の被災されました支部会員や関係者の方々、地域の復興のお役に立てていただければと思います。

なお、各地区に取りまとめをお願いしていた義援金(1,680,194円6/30現在)については、7月の理事会の席上、東北地区運営協議会長へ贈呈されました。

全国の支部会員の皆様の温かいご支援に感謝いたします。



岩手県大船渡市(6月22日)での公演

営協議会の皆様や伴奏、司会に尽力いただいた照井様、小田島様、北篠様のご協力に心から感謝申し上げます。



宮城県仙台市



岩手県陸前高田市



岩手県大船渡市

東日本大震災特集

今回の大震災で、江差追分会会員の中にも大きな被害を受けた方がおりました。当時の状況等を投稿していただきました。

東日本大震災を振り返って

宮城県多賀城市 仙台支部 川村 奈美



三月十一日、十四時四十六分その時、私は自宅の二階で昼寝をしていました。突然、今まで感じたことのない強い揺れを感じ目を覚ますと、棚のものが落ちてくる、物は倒れるでとかくひどい地震でした。あわてて、安全な場所にとにかく裸足で外に出て、道路まで何とか行きました。すると、消防の広報車が回っており、三十分後には津波が来るので高台に避難してくださいという案内でした。家に戻れず、裸足でいた私を見て、車で通りかかった奥さんが、私にスニーカーを貸してくれました。また、向かいの家の奥さんからジャンパーを借りて、近くの天真小学校に避難し

ました。小学校では体育館は溢れるくらいの人、校庭もいっぱいでした。夕方になると雪が降ってきてとても寒い日となり、避難者が多かったため、学校の教室も開放されましたが、そこもぎゅうぎゅうで、教室の児童のイス二つに避難者三人が座るという環境でした。家族にも連絡がつかず、心配していましたが、地震当時仕事に行っていた娘が夜中の十二時頃に私のいる避難所を探しあて、娘と夫の無事を確認できました。電気、水道も断たれ、また情報が一切なく不安な気持ちで一杯でした。食事は一日におにぎり一個やパンが一個という状況が続きました。二、三日が経ちラジオを聞く機会があり、地震の被害は宮城県が一番ひどく、浜には死体がたくさん打ち上げられていることを聞いて愕然としました。津波で家が流され、家族を亡くした人たちに比べたら、怪我もなく家族も無事だったのは幸せなほうです。

後で聞いた話ですが、地震当日私に靴を貸してくださった奥様が、津波にのまれ車の中で遺体で見つかったという話を聞きました。足には、ご主人の靴を履いていたそうです。その話を聞いたときは本当にショックでした。ご冥福をお祈りするばかりです。

しばらくして娘の車で町に出たときは、瓦礫の山で車が何台も重なり廃墟のようになった町を見て、これがあんな多賀城かというくらい変り果て言葉が出ませんでした。現在は、日本全国から応援やボランティアの方々の協力で、町も大分片付いています。

四月に入り、精神的疲れ、栄養の偏りから血圧が上がり、倒れました。二十日位病院に入院し、退院後は自宅が地震の揺れで全壊したので、娘の家へ引っ越しし、生活しています。やっと、一人で自分のことが出来るようになり、六月に入ってから追分仲間の顔を見たく練習にも通いだしました。

江差の皆さんには、いろいろと心配していただき、たくさんの方の元気をもらい感謝しています。九月の全国大会でまたお会いすることを楽しみにしています。

一日も早く元気な街に

宮城県仙台市若林区 仙台支部 鈴木 克典

突然の大きな揺れに、思わず外に飛び出す。地面が大きく波打ち我が家も波打っている。どの位続いたのか？凄く長く揺れていたと思われる。

屋根瓦が車に落ちてガラスが割れ、ボデイはボコボコ。家に入ると、タン、サイドボードが重なるように倒れ、壊れたガラスや食器類で足の踏み場がない。居間や台所も同じで家中がメチヤクチャ状態である。

一瞬啞然としていたが、家族の安否が気になり携帯電話で確認しようとするが、家族の安否と会社の状況、社員の安否確認はなかなか連絡が取れずに夜の八〜九時まで掛かってしまい、幸いにも家族全員の無事を確認、会社の社員全員の無事も確認できてホッとしました。社員は、地震直後社長の判断ですぐに帰宅させられ、津波には遭わずに帰宅できたということでした。

しかし、会社は高さ二〜三mの津波の直撃を受け、翌日まで水が引かない状態が続きました。ようやく三日目に会社の状況を確認しに行くことができました。会社の手前三km位までは車で

行けましたが、その先津波の押し寄せた所は電柱が折れ、トラックや乗用車が道路を塞ぎ、近くの倉庫から流れてきた品物やタイル、ガレキ等が散乱し迷路状態に。一面泥の中、足元を気をつけながら会社に歩いて行き、着いて啞然としてしまいました。

会社は、事務所と工場は別棟になっていて、事務所の横には無花果の木が二本、前にはなつめの木、そして工場、その前には柿の木とキウイの木と棚、工場の横には部品庫のプレハブ小屋、その横は駐車場。それが・・・！二階建ての事務所の一階部分が、柱と一部の壁を残し何も無い状態、そして無花果の木二本、なつめの木、キウイと棚、プレハブ小屋、それに駐車場のクレーン付きトラックを含め三台の車全て流され、工場の窓は西側、南側が無くなり、鉄の大扉は捻じ曲げられ、工場の内には直径六十cm長さ五mの丸大木、五十kgプロパンガスボンベ、ガレキ、松の木等が入っており、工場の機械以外の軽いものは全て流され、工場敷地のフェンスとブロック塀も全て流

されてしまいました。工場内はガレキと共に大量の砂とヘドロ。もう啞然とするしかない状態でした。

傷心して帰宅途中、港の方へ歩いて行きましたが、海岸の近くは電柱、街路樹、標識、信号、踏切、ガードレール全ての物が押し流され何も無い光景に。道路はえぐられいろんな車とガレキで溢れ、初めて見る光景に打ちのめされた思いでした。

後日、被害の大きかった海岸へ行ってみましたが、カラーの世界は無く、グレーの世界が広がっているのが印象に残っています。

今回の震災は、正直誰一人このような大津波が来るとは思っていないかったのではないのでしょうか？あの大きな揺れの中、津波が来るとは私自身全然思わなかったし、まして海岸から二km位の距離にある会社（旧多賀城ジャスコ近く）に二mを越す津波が来るとは、頭の中をよぎりもしませんでした。多くの犠牲者は、車で逃げる途中や、移動中に津波に襲われたり、家の中にいて溺れて亡くなったと聞いています。

多賀城市では、防災無線のスピーカーがあり震災当日は、津波の来襲

を放送し避難を呼びかけ、広報車も出て呼びかけし、たくさんの方が高台に避難し助かったようです。

地震の翌日、支部長が見舞いに駆けつけてくださいました。仙台の街も地域によって被害がまちまちで、山の手の支部長の家は殆ど被害が無いということでした。私の家は外壁にヒビが入り、屋根瓦は半分以上ガタガタになり半壊状態でした。住むには支障ないのですが、いつ瓦が落ちてくるか分からず心配でなりません。

仙台支部の人たちと連絡を取ったのですが、携帯電話の電源がなく、ガソリンもなく、電気が復旧してからようやく連絡を取れるようになり、全員の無事を確認しホッとしました。また、東京友楽会の櫻井さんからお見舞いの電話をいただき、その心遣いに本当にありがたいという思いでいっぱいになりました。

今、会社は幸いにも復旧し、間もなく震災前と同じようになると頑張っています。未だに殆どの人たちと他の会社は今も復旧出来ずにはいますが、一日も早く元の元気な街になるように願わずにはいられません。

地区選抜大会終了す

五月十五日の江差地区を皮切りに始まった地区選抜大会も六月二十六日の東北地区をもって全て終了いたしました。

今年度より地区選抜大会の運営、審査集計業務一切を各地区運営協議会において取り進めていただきました。皆様のご協力により無事全地区の選抜大会が終了することができました。感謝申し上げます。



支部・地区協議会コーナー

「体験作文」楽しいえさしおいわけ

愛知県豊田市立竹村小学校三年 柴田 一輝 (愛知三河支部)

ぼくは、小学校の「できるようになつたよ はっぴよう会」で、えさしおいわけをうたいました。友だちは、みんなぼくのうたを目をくりくりさせてしんげんに聞いてくれました。ドキドキしたけど、とつても気もちよく、楽しかったです。

ぼくは、一才の時はじめてえさしへ

行きました。それからまい年、大すきなひこうきにつてえさしへ行っています。えさしおいわけをうたう時、あの大きなえさしの海を思い出します。また、今年もあの海が見たくて毎日れんしゅうしています。学校の友だちにもえさしおいわけのことや、えさしの海のことをたくさん伝えたいと思います。

伴奏部会設置に向け準備委員会を設置

平成二十三年五月二十八日に伴奏部門推進委員会を開催し、今後の伴奏部会のあり方等について協議が行われました。

事前に各支部よりアンケート調査を実施し、回答内容をもとに協議した結果、次のとおり取り進めることで決定しました。

①伴奏部門の設置について

師匠会の部会の中に伴奏部会を設置することで確認

アンケート結果や地区伴奏部門推進委員からの意見を踏まえ、伴奏部会設置については概ね賛成を得ていると判断し、平成二十四年度の師匠会総会に師匠会の部会の中に、伴奏部会の設置を提案することで確認。

②具体的な内容について (資格階級・技能検定・各種委員会)

部会設置後の協議事項

アンケート結果や地区伴奏部門推進委員からの意見を踏まえ、資格階級制度といった具体的な内容については、賛否はあるものの、今の段階では拙速

には進めず、部会が立ち上がった段階で、伴奏者の多くの意見を聞きながら、検討していくことで確認。

③今後の取り進め方について

(仮称) 伴奏部会を設置し取り進めしていく

以上の内容を踏まえ、平成二十四年度師匠会総会提案に向け、研修の充実を主として、研修内容や方向性を協議するため、準備委員会として(仮称) 伴奏部会を設置し取り進めていくことで確認。

なお、委嘱委員については、師匠会三役から一名、伴奏部門推進委員より五名の合計六名に委嘱し、伴奏部門推進委員会は、今回の会議を最後に解散することになりました。

※委嘱委員

師匠会三役↓房 田 勝 芳
 推進委員↓浅 沼 和 子
 熊 野 正 宏
 鈴 木 弘
 佐々木 東 雲
 渡 辺 傳次郎

事務局からのお知らせ

指導者資格認定者

今回新たに認定された方々です。

正師匠

- ・ 上林 捷二 (札幌宝捷支部)
- ・ 久保田勝美 (札幌白石支部)

師匠

- ・ 石塚 千丈 (静岡第一支部)
- ・ 播磨 孝雄 (函館孝翔会支部)
- ・ 井口 道雄 (東京第一支部)

準師匠

- ・ 村川真奈美 (苫小牧観昇会支部)
- ・ 宮園真壽美 (札幌北支部)
- ・ 松木 秀一 (東京光が丘会支部)
- ・ 佐藤美枝子 (札幌喜童支部)
- ・ 林 勲 (札幌喜童支部)
- ・ 阿部 一男 (旭川東支部)
- ・ 岡田 辰雄 (宝優会支部)
- ・ 木村八重子 (鷗賓会支部)
- ・ 永野 令一 (仙台支部)
- ・ 坂東 勝典 (仙台支部)

講師

- ・ 高橋 廣 (上ノ国支部)

準講師

- ・ 牧野 和子 (追分大好き会千歳支部)
- ・ 中馬 秀磨 (浦河支部)
- ・ 福田 精治 (宝優会支部)

新旧役員交代

今年度役員改選があり、次の理事・監

査役の方々が変わりました。

新任

- 坪田 昭信 (芸能部門・江差地区)
 - 伊藤 満 (芸能部門・札幌地区)
 - 棚橋 健蔵 (監査役・江差地区)
- 退任
- 奥野 和芳 (芸能部門・札幌地区)
 - 坪田 昭信 (監査役・江差地区)

新支部と脱会支部

四月の理事会では、新たな支部と脱会支部を承認しました。これで、支部数は、一五八支部となります。

〈新支部〉

- ・ 札幌章英支部 (支部長 渡部 章子) 二十一名 札幌地区
- ・ 一笑支部 (支部長 村田 一笑) 三十二名 道北地区
- ・ 兵庫基開会支部 (支部長 石井 建三) 二十一名 関西地区
- ・ 富山支部 (支部長 泉 貞夫) 二十五名 北信越地区

〈脱会支部〉

- ・ 千葉流山支部 (支部長 柳原 勝康)

今後の二十三年度事業計画(予定)

- 第二回理事会 平成二十三年七月九日
- 第四十九回江差追分全国大会 平成二十三年九月十六日～十八日
- 江差追分会師匠会研修会 第一回 平成二十三年十一月十三日
- 第二回(総会も実施) 平成二十四年二月十九日
- 平成二十三年秋季江差追分セミナー とき 平成二十三年 第一週 十一月三～五日
- 第二週 十一月十～十二日
- 第三週 十一月十七～十九日
- とき 平成二十四年 第一週 二月二～四日
- 第二週 二月九～十一日
- 第三週 二月十六～十八日
- 第四週 二月二十三～二十五日
- 資格認定審査会 平成二十四年三月十八日
- 地方格付審査会 とき 平成二十三年十一月二十七日
- ところ 帯広市

町の機構改革に伴う 事務局体制の変更について

四月一日付で江差町の機構改革があり、今までの産業振興課江差追分係が追分商工観光課江差追分係に変更となりました。それに伴い、小田島訓追分会事務局長(産業振興課参事)が追分商工観光課長となり、普段は主に役場庁舎にて執務しております。(直通電話番号 〇一三九一五二一六七一六) また、追分商工観光課主幹として、中川智事務局次長が三年ぶりに追分会事務局に戻ってきました。今後ともよろしくお願ひいたします。

江差追分全国大会の 古い写真をお持ちの方へ

来年の第五十回記念大会において、大会変遷パネル展示を行う予定です。事務局では古い全国大会関連の写真を探しています。第一回大会から第二十回大会までの写真をお持ちの方がおりましたら借用したいと思っておりますので、事務局までご連絡願います。

各支部・地区運営協議会からの情報をお待ちしております。

【編集】 岩淵啓介・松村 隆

館 和夫・高田 裕

【企画】 江差追分会事務局